

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：幼児教育学科

資格：教授

氏名：小野 賢太郎

研究分野	研究内容のキーワード
教育工学, 教科教育学	教育工学, 教科教育学, 算数科
学位	最終学歴
修士 (学校教育学)	兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 教科領域専攻自然系コース数学修士課程 修学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. マルチメディア機器を利用した授業	2010年	プレゼンテーションソフトを用いて、授業内容を提示しながら説明を加える授業を展開。プレゼンテーションは、文章だけでなく、写真、動画なども活用しながら、学生にとって分かりやすい授業を行った。
2 作成した教科書、教材		
1. CD-ROM「神戸ICTを活用したら分かる授業(算数)研究会」サンプルコンテンツ集	2008年03月	CD-ROM「神戸ICTを活用したら分かる授業(算数)研究会」サンプルコンテンツ集 (非売品) を作成した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 小学校教諭 専修免許状	1993年03月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 公立小学校教諭	1980年4月 ～1994年3月	
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. インターネット活用のためのネットワーク入門	共	1998年03月	綜文館	小野・井上・濱谷・中植 大学や短大の学生、及び社会人などが、初めてインターネットを利用する場合、事前に必要となる知識や考え方を解説している。後半ではやや応用的な利用法とインターネット利用の注意点に触れている。全 (pp. 205) (pp. 29～35, pp. 92～131, pp. 187～196)
2. OA機器操作技術評価試験問題集	単	1996年10月	武庫川学院事業部	大学課程における情報教育の演習書として、文書処理の基本となる事項を中心に問題集形式にまとめた。文字入力から漢字の知識、編集校正に関する技能など、ワープロ検定合格に必要な能力が全体で育成されるように問題を作成した。全 (pp. 100)
3. 文書処理の基礎	単	1996年04月	武庫川学院	大学課程における情報教育の入門書として、文書処理の基本となる事項を中心にまとめた。コンピュータの基本操作から始まり、基本装置の種類と特徴、文字の入力、編集と校正、印刷等について、具体例を示しながら説明を加えた。全 (pp. 66)
4. パソコンによる指導事例集	共	1989年03月	西宮市教育委員会西宮市CAI研究委員会	小野・他20名 公立学校でのパソコン活用について、実践事例を挙げて具体的に説明をした。LOGO言語の小学校での活用事例を3つ紹介した。全 (pp. 104) (pp. 67～68, pp. 70, pp. 71)
2 学位論文				
3 学術論文				
1. 教科算数のためのFLASHを使った[Q&A型]デジタル教材の開発と活用	共	2009年12月	情報教育研究センター年報2008武庫川女子大学 (通巻第17号)	小野・平井 教科算数において、教室でプロジェクタ+パソコン+スクリーンで行う授業で使う教材に加えて、複数台パソコンを置き、児童自身が確かめながら考えを

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
2. 教科算数において個に応じた学習を支援するICTの活用と指導方法の一考察：神戸市立I小学校第6学年「体積」の実践授業を通して	共	2009年03月	武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編	深めていくFLASHを使った[Q&A型]デジタル教材を開発し授業方法の検討を行った。 小野・平井 本研究は国の施策を踏まえ、神戸市でICTの活用について2003年度から産学官共同で取り組んでいる。我々は、公立小学校教師の大半に担当する機会があり、小学校低学年から高学年へと学年が上がるにつれて習熟度の差がテスト等で顕著になりやすいとされる算数に焦点を当て、小学校の教師意識調査の結果とICTを活用した授業後の児童への意識調査の結果と今後の考察をまとめている。
3. 指導力向上を見据えたICT活用のための教科算数における小学校教師の事前意識調査の結果と考察：東京都M市における調査をベースとして	共	2009年03月	武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編	小野・平井 我々は、ハードウェア面はもとよりソフトウェア面を強化することで、学校ネットワーク整備事業のより一層の発展が図れるものと考え、授業に役立つデジタル教材の内容と利活用についての現状把握と、教師のニーズの抽出を目的に調査を実施した。本稿では、特に「算数の指導」に関する調査の結果と考察についてまとめている。
4. 教科書に準拠したフラッシュ教材の開発と指導方法の一考察：神戸市立I小学校第3学年算数科「形を調べよう」を事例として	共	2009年03月	兵庫大学論集 第14号 2009	平井・小野 算数における効果的なICT活用の普及を目的に、教師の意識を調査し、第3学年「形を調べよう」の授業を実践するにあたって、授業全体のうちICTをどの程度用いるかを協議し、教科書に準拠した6種類のデジタル教材を開発し、一斉授業を実施した。児童への意識調査および授業の事前および事後に実施したプリント形式による調査を実施し、それらの結果をもとに個に応じた教育への対応や、授業手法等について検討した。
5. 学業不振児童の学力向上を意識した教科算数における指導方法の一考察：神戸市立K小学校第6学年の1学期の実践授業および朝の特別学習を通して	共	2009年03月	武庫川女子大学大学院 文学研究科教育学専攻 教育学研究論集 第4号	小野・平井 ICTを取り入れた授業後に児童の意識調査をすると、「楽しかった」「わかった気がする」という回答が多く、算数を苦手とする児童に楽しく取り組ませるという点で一定の効果があることは示唆された。しかし、ICTの効果と児童の基礎学力との関係付ける検討には至っていない。そこで児童の実際の算数の基礎学力がどの程度なのか、また、算数の基礎学力を向上させるためにはどのようなことができるかに焦点を当て、調査を実施した。
6. 教科算数のためのFLASH教材とヒントカードを統合したPDAシステムの開発とその経過	共	2008年12月	情報教育研究センター 年報 2007	小野・平井 教科算数において効果的なICT活用の普及を目的に、教科算数の授業取り組みに関する教師の意識調査を実施して、その結果と考察から、教科書に準拠したデジタル教材を開発し、第6学年「体積」の授業で実際にICTを活用した授業を実施した。「コンピュータ+プロジェクト」の普通教室用と、対象児童全員に配布する携帯端末(PDA)用のデジタルコンテンツを開発し、一斉授業をベースに個別対応もできるように工夫した。
7. 外部講師による授業の導入と展開 (3)	単	2004年12月	武庫川女子大学 情報教育研究センター年報 2003	入学者全員に対して、基礎的な情報教育を実施する方法として、外部業者による授業委託を行って4年目である。今年度から習熟度別クラス編成を導入した。実施してきた中での問題点を含め、平成18年度を見据えた今後の展望について述べる。
8. 外部講師による授業の導入と展開 (2)	単	2003年12月	情報教育研究センター 年報2002 11号	入学生全員に対して、外部講師による基礎的な情報教育を実施して3年目を迎えている。実施してきた中での問題点と対策、今後の展望について述べる。全 (pp. 6)
9. 外部講師による授業の導入と展開	単	2003年02月	情報教育センター年報2001 10号	約3千人の入学生全員に対して、均質な基礎的情報教育を実施する方法として、従来の専任・非常勤講師の授業担当から、外部業者による授業の委託を行った。企業などでインストラクターとしての経験豊富な人材を講師として採用した。これらインストラクターでのチームティーチングと従来の講師との違いや、授業実施にあたっての問題点を含め、導入の流れを報告し、検討を加えた。全 (pp. 6)
10. Webを授業の補助として利用した試み	単	2002年03月	情報教育研究センター 年報2000 9号	授業での資料配布やプレゼンテーションを、Webページで提供する試みである。本研究では、実際に授業での実践を行い検討を加えている。今後の授業内容の学生への提供の方法としてのWebページのあり方についても探る。全 (pp. 3)
11. モバイル機器を利用した学習活動のマルチメディア化に関する研究	共	2002年03月	平成11年度～平成13年度科学研究費補助金(萌芽的研究)研究成果報告書	濱谷・小野・中植・宮本・岡田 教室のマルチメディア化により、動画を含む様々な情報の提示が容易に行えるようになり、教員の教授活動が大きく改善された結果、授業時間内に提示される情報量が増大した。一方、学生側には、それらの情報を受容するための学習環境が不十分である。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
12. 小学校における地域教材の作成と授業展開(その2)「社会科から総合的な学習への発展を求めて」	単	2000年12月	情報教育研究センター年報'99	そのため学生の学習活動のマルチメディア化を図り、授業での情報を円滑に受容できる学習環境について研究し考察した。担当 (pp. 33~41)
13. 小学校における地域教材の作成と授業展開(その1)「社会科から総合的な学習への発展を求めて」	単	1999年11月	情報教育研究センター年報'98	地域教材として利用するために、西宮市域の建物等の写真を撮影しCD-ROMにした。そのCD-ROMを利用した授業を行い、その教材の利用方法や今後の展開の方向性を検討した。全 (pp. 6)
14. 学校間交流を支援するシステムの試作	単	1998年08月	情報教育研究センター年報'97 第6号	学校間交流を進める上で、各種の方法があるが本システムは、地域社会の支援を受けながら、パソコン通信の掲示板システム(BBS)を利用して行うものである。交流先は、手始めに同じ市内の学校とした。さらに、学校間の交流にとどまらず、同じBBS内のユーザからの援助も受けて行うことを特徴として持つシステムについての研究である。全 (pp. 4)
15. インターネットを利用した仮想スクールシステムの開発	共	1997年09月	第11回私情協大会資料	小野・井上・濱谷・中植 松下視聴覚教育研究財団の委託研究。目的は、本学のキャンパスネットワーク(MWU-net)を使って、学生所有のノートパソコンを端末とした「仮想学習ネットワークシステム」構築し、これまで教員と学生が直接対面していた授業に加え、マルチメディアを介した環境のなかで、インターネットを利用した遠隔授業の在り方について研究を行った。全 (pp. 216) (pp. 49~50)
16. 情報教育におけるノート型パソコンの活用と問題点	共	1995年03月	情報教育研究センター年報'94	本年度から、共通教育科目において「情報処理基礎演習」が開講されている。この科目では、学生個人にノート型パソコンを持たせて受講するP科目と本校が所有しているパソコンを使用して受講できるM科目とがある。本稿では、今年度実施した「情報処理基礎演習」で個人持ちにしたノートブック型パソコンを用いて明らかになった問題点等を考察する。(pp. 23-26)
17. 情報機器に関する子供の意識調査 Children's Attitudes for Wordprocessor, Computer, and Game machine.	共	1993年10月	日本教育工学会第9回大会論文集	中植、小野 ワープロ・パソコン・家庭用ゲーム機等について、小学4年生から中学3年生までの児童生徒を対象に、どのような意識を持っているか調査し報告した。学校等でコンピュータに慣れ親しんでいる児童は、情報機器の違いを機能面にとらえており、慣れ親しんでいない児童は外見面の違いをとらえている。(pp. 234-235)
18. コンピュータにおける動的データ構造の研究	単	1992年03月	兵庫教育大学大学院学校教育学修士学位論文	コンピュータで処理するデータのうち、動的なデータ型で表現されるデータ構造について木構造を中心に、いくつかを考察した。またゲーム理論に基づいたゲームの木を、動的データ型を用い、MIN-MAX法、 α β 法で構築した。応用として、オセロゲームをプレイするプログラムを作った。
19. コンピュータの教育利用を考える	単	1990年01月	第9回兵庫県小学校視聴覚教育研究大会論文集	小学校でのコンピュータの教育利用に関して、具体的な事例をいくつか紹介した。今後のコンピュータ利用教育について、データベースの利用、シミュレーションの利用、表現の道具としての利用、通信端末としての利用、その他を提言している。(pp. 44-48)
20. 義務教育におけるインターネットホームページについて	共		情報教育研究センター年報'95	義務教育においてインターネット上にホームページを開設する学校が増加している。ホームページを開設するには、そのホームページをどこのホストコンピュータに置くかが重要である。本稿では、現在開設されているホームページのホストコンピュータをドメイン名から推察し、義務教育においてホームページを開設する際の問題点にせまる。(pp. 30~33)
21. インターネット時代のM I E Tの役割	共		情報教育研究センター年報'95	インターネットが普及している中で、以前からあるパソコン通信を見直す必要がでてきた。インターネットを世界的規模の開放的なネットワークとするならば、パソコン通信は「閉鎖的」な地域型ネットワークといえる。また、パソコン通信の掲示板は、過去に遡って閲覧できる「不揮発性」といえる。本稿では「閉鎖性」「不揮発性」をパソコン通信の利点として考察する。(pp. 25~29)
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
1. 学業不振児童の学力向上意識した教科算数における指導方法の一考察：神戸市立K小学校第6学年の1学期の実践授業および朝の特別学習を通して	共	2008年11月		平井尊士 公立小学校の児童への意識調査ではパソコンを使った授業では、「楽しかった」「分かった気になった」との回答を多く得るが、実際に児童の基礎学力にどのようにつながっているか検討できていない。そこで、①実際の算数の基礎学力がどの程度なのか、②算数の基礎学力を上げるにはどのようなことができるか、に焦点を当て、神戸市立K小学校第6学年を対象に共同研究を行っている。その途中経過とこれまでの考察について報告した。
2. 教科算数における教師の指導方法の一考察：ICT活用を行う上での「算数」に対する事前意識調査と携帯端末（PDA）の試作開発を通して	共	2008年07月		平井尊士 教科算数の授業取り組みに関する教師の意識調査を実施して、その結果と考察から、教科書に準拠したデジタル教材を開発し、第6学年「体積」の授業で実際にICTを活用した授業を実施した。従来から行われている“コンピュータ+プロジェクタ+デジタル教材”という提示方法による一斉授業に加え、デジタル教材を携帯端末（PDA）に入れて対象児童全員に配布し、一斉授業をベースに個別対応もできるように工夫した。
3. 表計算ソフトを用いたプログラミング教育（マクロ編）	共	1998年12月		小野賢太郎・松永公廣 文系の学生にも必要とされるプログラミング教育の困難点を緩和するために、ExcelのVBAを利用した学習CAIを作成し、評価した。Excelの学習のうち、ワークシート上での処理の延長として、VB型マクロのプログラミングを学習する。
4. EXCELによるプログラミング教育のために	共	1998年10月		松永公廣・小野賢太郎 近年の情報社会では、文系の学生に対してもプログラミング教育の必要性が生じてきている。しかし文系の学生の多くは、プログラミング知識を学ぶ経験は少なく、学習への抵抗感は大い。そのプログラミング教育の困難点を少なくするために、Excelの基本機能を学習している文系の学生を対象としたExcelのVBAを用いた学習CAIを作成した。
5. 表計算におけるプログラミング教育（マクロ編）	共	1998年08月		松永公廣・小野賢太郎 Excelの学習を一通り終えた文系学生を対象にしたプログラミング教育として、ExcelのVBAを用いた学習CAIを作成し、実践評価した。
6. 情報教育におけるノート型パソコンの活用と問題点	単	1994年09月		学生個人にノート型パソコンを所有させることにより、タイピングなどの練習時間が増え上達することがわかった。しかし、持ち運びするには、重量が重く、電源の問題等がある。（pp. 110-111）
7. 情報教育におけるノート型パソコンの活用と問題点	単	1994年08月		学生個人がノート型パソコンを所有することによる問題点を考察した。タイピングの速さでは、練習の時間の差が、上達の差にそのままあらわれた。また、授業で使うには、本体の重量等、多くの問題点がある。（pp. 36-37）
8. 小学校での海外パソコン通信の可能性	単	1992年12月		公立小学校での海外パソコン通信について、設備面、言語の違いでのサポート面について述べた。
9. 日本の小学校のコンピュータ利用について	単	1992年07月		日本の小学校でのコンピュータ利用について、ロゴ言語、ドリル学習、お絵かきなど具体的事例を紹介した。
10. 初等教育における海外パソコン通信の可能性について	単	1991年12月		海外パソコン通信を、小学校教育において利用できる科目や単元について、具体的に述べた。一例として、小学4年の郷土学習では、海外との生活や文化の違いを交流し、あらためて自分の郷土について学習を深めることを述べた。
11. ロゴ言語の初等教育での活用事例	単	1990年08月		日本の初等教育におけるロゴ言語の活用事例を述べた。小学校4年生でのローマ字学習を基点として、ロゴ言語を6年生まで学習していく内容について述べた。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 非教員養成系大学教職課程における「学びの実効性」と教員の「資質能力の向上」に関する研究－二年目教員・中堅教員の実態から見たポスト「教職課程」－	共	2011年03月	文部科学省委託事業「教員の資質能力の向上に係る基礎的調査」報告書	小野賢太郎、北口勝也、藤本勇二、山崎順次、山崎洋子、山崎彰、他 委託事業「教員の資質・能力の向上に係る基礎的調査」の概要について述べた。
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
	日本教育工学会 日本教師教育学会 日本数学教育学会 教育システム情報学会